

垂水なぎさ街道



舞子砲台跡(明石藩舞子台場跡)

幕末開国を求める欧米列強の相次ぐ来航によって江戸幕府は海防強化の必要に迫られた。そこで文久3年(1863)幕府の命により、明石藩が一万両の貸与を受けて幕府軍官奉行の勝麟太郎(海舟)の指導のもとに急遽築造した砲台である。対岸の淡路島にある徳島藩の松帆台場と対になって、明石海峡を通過する外国船を挟み撃ちにしようと企図されたものである。

発掘調査の結果、現在の海岸護岸の石垣が築造当時のままであり、台場の石垣全体も良好な状態で埋まっていることがわかった。大きさは東西約70m、高さは海岸から10m(現存しているのは下層部の6m)であったと推測され、現在見られるのは地表に露出している台場の一部と石垣の一部のみである。

砲台の形式は稜堡式と呼ばれ、石垣の平面形がW字形となる西洋の要塞を参考にして設計されている。一般の砲台は土盛り形式であるが、舞子砲台は全て石で積まれている。国内では他に例がなく大変貴重なものであり、国の史跡に指定されている。

記録によれば、砲弾庫・火薬庫・兵舎等施設は建設されず、また大砲も据え付けられずに明治維新を迎えたとある。



舞子海上プロムナード

明石海峡大橋の神戸市側の付帯施設で、平成10年（1998）4月5日に開設された。

海面からの高さ47m、陸地から明石海峡に約150m突き出した総延長317mの回遊式遊歩道である。スリルを味わえる「海上47mの丸木橋」や8階展望ラウンジでは明石海峡大橋の主塔約300mに登った気分が味わえる展望カメラシステムがある。

夢レンズ

半世紀の技術の結晶として完成した明石海峡大橋の生みの親である原口忠次郎氏（第12代神戸市長）の偉業を讃えるために、平成15年（2003）5月大橋架橋5周年にあたり記念碑が建立された。

「人生せべからく 夢なくしてはかないません」

「三種の異なった岩肌に上るメビネスの輪は、人・自然・科学を、そして、明石海峡大橋が結んだ本州・淡路・四国を表している。この三つの層が調和し、円空から未来の発展を展望している。」……モニュメントの作者彫刻家牛尾啓三氏の言葉」

孫文記念館(移情閣)

この記念館は中国の革命家・政治家・思想家であった孫文（号は中山 1866～1925）を顕彰する日本で唯一の施設で、昭和59年（1984）11月に開設された。日本と孫文、神戸と孫文の関わりについて紹介し、貴重な孫文直筆の書も展示している。

この建物はもともと神戸で活躍した中国人実業家・呉錦堂

（1855～1926）の別荘「松海別荘」を前身としており、その後東側に八角三層の楼閣「移情閣」が建てられた。八角形の移情閣は角度によって六角形にも見えるおしゃれな造りで、地元では「舞子の六角堂」として親しまれた。



大正モダンの情緒溢れる移情閣は、明石海峡大橋を背景にした優美な外観だけでなく、贅を凝らした内装も必見である。金唐紙の貼られた壁のほか、龍や鳳凰の彫刻で飾られた天井などの豪華な造りがめをひく。

八角三層の楼閣は日本最古の木骨コンクリートブロック建築で、国の重要文化財に指定されている。移情閣という名前の由来は八方の窓から移り変わる景色を楽しむことから名付けられた。

孫文と移情閣との関わりは大正2年（1913）3月14日、来神した時、神戸の中国人、経済界有志が開いた歓迎の昼食会の会場になったことにある。

孫文直筆の「天下為公」の碑が邸内にある。

明治天皇歌碑

明治天皇はこの地舞子をことのほか愛され、明治 28 年 (1885) 以来 7 回にわたり行幸された。現在の舞子公園は明治 33 年 (1900) 初の兵庫県立都市公園として開園された。

公園内に明治天皇の歌碑がある。明治天皇がかつて御在社としていた舞子有数の料理旅館 亀屋旅館の跡地に昭和 11 年 (1936) に建設された。後に現在地へ移された。花崗岩製で一辺が 1.5m の大きなものであり、形は天皇の神輿 (鳳輦) をデザインしたものである。



正面 「はりまがた 舞子の浜に 旅寝して 見し夜こひしき 月の影かな」

右面 「あしたつの 舞子の浜の 松原は 千代をやしなう 処なりけり」

左面 「はりまがた 舞子の浜の はま松の かけに遊びし 春惜しぞ思う」

舞子浜遺跡

舞子公園で最初の埴輪棺 (埴輪を棺に利用したもの) が見つかったのは昭和 35 年 (1960) のことである。その後公園一帯で発掘調査が行われ、15 基の埴輪棺が出土し、公園一帯が古墳時代の墓地であることが判明し、舞子浜遺跡として指定された。

棺に使用されている埴輪は、ここから東へ 1km の所にある五色塚古墳 (県下最大の前方後円墳) の円筒埴輪とよく似ているが、五色塚古墳は豪族の墓であるのに対し、ここは庶民の墓である。

旧武藤山治邸

鐘紡中興の祖、日本の紡績王ともいわれる実業家で、後に政治家になった武藤山治 (1867~1934) が明治 40 年 (1907) に舞子の有栖川宮別邸 (現舞子ビラ) 近くに建てた木造二階建てのコロニアル様式の洋館です。円形のバルコニー・スレート葺の屋根・下見板張りの外壁が特徴である。明治期の住宅形式や生活様式を知ることができる貴重な建物である。

山治が亡くなった後は、鐘淵紡績株式会社に寄贈され、福利厚生施設として利用された。洋館部分のみが現存し、兵庫県に寄贈後現在の場所へ移築・復元し、平成 22 年 (2010) 11 月より公開されている。国の登録有形文化財である。

根上がり松

現在の舞子公園一帯は古来舞子浜と言われており、白砂清松と淡路島を望める風光明媚な景色から天下の名勝といわれてきた。

江戸時代「東海道五十三次」を描いた安藤広重は美しい海岸風景を描いている。また、志賀直哉は「暗夜行路」の中で、「塩屋、舞子の海岸は美しかった。夕ばえを映した夕なぎの海に…」と述べている。

かつては3,000本あった松の木もいまでは1,800本ほどになっている。なかでも舞子の景観の代表であった根上がり松（長年の地面の風化により根が地表に現れた老松）は現在残っておらず、目下再生の試みがなされている。

アジュール舞子

明石海峡大橋の雄大な人工美と海峡の自然美が調和する海浜スポーツ・レクリエーションゾーンとして整備された。夏季は海水浴場として、それ以外の期間はBBQが楽しめる場として利用されている。

マリンピア神戸

南欧の港町をイメージさせるレクリエーションゾーンである。「塩づくり」「乾のりづくり」などの体験学習やさまざまな展示を通して神戸の漁業を紹介する「さかなの学校」がある。

またショッピングや世界のグルメが楽しめる「三井アウトレットパーク」には連日多くの人が訪れ賑わう。

海神社(かいじんじゃ 正式名 わたつみじんじゃ)

神社の縁起によれば、神功皇后が新羅・高句麗・百済への三韓征伐へ出兵し、その帰途この地の海上で暴風雨にあい、御座船が進めなくなった。そこで皇后自ら綿津見三神をまつたところ、たちまち風雨はおさまり、無事に都へ帰ることができた。そこでこの地に社殿を建てたのが鎮座の由来とか。

927年の「延喜式」に名前がでてくる垂水を代表する神社である。

航海安全・漁業繁栄の神として仰がれており、さらに当地が海陸をとわず古代交通の要地であったことから交通安全の神としても仰がれている。

垂水漁港の所に高さ12mの朱塗りの浜大鳥居がそびえたっている。昭和32年(1957)に建てられたものであり、鳥居の海側には「海神社」の扁額がかかり、陸側には「綿津見神社」の扁額がある。当社・社号では「わたつみ」と読むが、古記録では「あま」「たるみ」などの読みもあるようである。現在、一般には「かい」と呼ばれることが多い。

(次回予告)

2021.11.20

兵庫史を歩く No.20 兵庫県の成り立ちとは？

初代県庁館～伊藤博文公銅像台座～兵庫県公館

- ・初代県庁館オープン記念
- ・現在の県庁は何代目になる？
- ・なぜ兵庫県は旧五国からなり、広大なのか？
- ・なぜ伊藤博文が初代県知事になったのか？